市町村別の将来推計は

平成42年 3割を超える市町村で 年少人口割合が10％未満 生産年齢人口割合は50％未満

年少人口と生産年齢人口の割合は、平成12年から42年にかけて99％の市町村で低下します。

この間に年少人口割合10％未満の市町村の割合は3％から31％へ、生産年齢人口割合50％未満の市町村の割合も4％から32％へと著しく増加します。

平成42年 3割を超える市町村で 高齢化率が40％以上

一方で、老年人口割合は、平成12年から42年にかけて99・6％の市町村で上昇します。

この間に老年人口割合40％以上の市町村の割合は3割を超え、老年人口割合20％未満の市町村は7つのみになります。

実際には、推計よりも厳しい状況で人口が推移していますので、今後はより急速に少子高齢化が進展すると考えられています。

4市町村は、どうでしょうか

年少人口は

年少人口数は、減少傾向です。

総人口が増加する**佐久市**でも、平成12年に比べ27年は増加しているものの、42年では減少しています。

年少人口割合は、4市町村とも減少していきます。

生産年齢人口は

生産年齢人口数は、**佐久市**では、平成42年も増加傾向にありますが、**臼田町・浅科村・望月町**は減少しています。

生産年齢人口割合は4市町村とも減少傾向にあり、とくに**臼田町**では42年に50％近くにまで落ち込んでしまいます。

生産年齢人口の減少は、社会の活力を著しく低下させることになります。

「これから社会をどのような形で支えていくのか」大きな課題が私たちに投げかけられています。

老年人口は 臼田町・望月町は10年後、高齢化率が30％以上

老年人口数は、**佐久市**と**浅科村**は平成42年も増加傾向です。

臼田町と**望月町**は、平成27年に比べ、42年は減少しています。ただし、この2町では老年人口数が減少しているにもかかわらず、その割合は増加しており、これは人口全体が大幅な減少期へ突入していることの現れです。

平成12年、**望月町**の老年人口割合は28％を超えており、すでに2人で1人の高齢者を支える社会に入っています。

そして、**臼田町**と**望月町**の老年人口割合は、今から10年後の平成27年は30％を超えています。

これは、全国より15年も早い速度で高齢化が進んでいることになります。

【4市町村の将来推計人口】（上段：人・下段：％）

国立社会保障・人口問題研究所（中位推計）

項目・年 / 市町村名	年少人口（0～14歳）			生産年令人口（15～64歳）			老年人口（65歳以上）		
	平成12年（2000年）	平成27年（2015年）	平成42年（2030年）	平成12年（2000年）	平成27年（2015年）	平成42年（2030年）	平成12年（2000年）	平成27年（2015年）	平成42年（2030年）
佐久市	11,082	11,196	10,238	41,816	43,883	44,311	13,977	18,154	20,837
	16.6	15.3	13.6	62.5	59.9	58.8	20.9	24.8	27.6
臼田町	2,326	1,900	1,469	9,682	8,109	6,514	3,954	4,672	4,630
	14.6	12.9	11.6	60.7	55.2	51.6	24.8	31.8	36.7
浅科村	1,031	946	864	3,855	3,795	3,501	1,618	1,720	1,918
	15.9	14.6	13.8	59.3	58.7	55.7	24.9	26.6	30.5
望月町	1,561	1,276	1,055	6,090	5,474	4,871	3,024	3,069	2,964
	14.6	13.0	11.9	57.0	55.8	54.8	28.3	31.3	33.3
計	16,000	15,318	13,626	61,443	61,261	59,197	22,573	27,615	30,349
	16.0	14.7	13.2	61.4	58.8	57.4	22.6	26.5	29.4

少子高齢化社会を克服するためには、4市町村に住む皆さんが力を合わせ薄く広い負担により支え合う体制づくりと効率的な行政基盤の確立が必要になります。

少子高齢化の現実に直面している今、新市が人口増加傾向にあるという優位性を活かしながら、魅力あるまちづくりを進めることが重要になります。